

漁海況情報第4報 (2014年7月4日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0159

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>」でも公開中です。

1. 海況

本県の表面水温は平年よりも高めとなっています。

宮城県沿岸から沖合海域の表面水温は 17～25℃台となっており、平年よりも高めとなっています。仙台湾では平年より概ね1～5℃高く、38° 50′ Nの142° 10′ E付近では平年より6℃高めとなっています。

100m深水温は2～12℃台となっており、38° Nの143° 10′ E付近では2℃台の冷水がある一方、38° 30′ N及び38° 50′ Nの143° 10′ E付近では12℃台の暖水がみられました [P1.水温水平分布図] [P1.水温平年偏差図]。

水温鉛直断面図をみると、表層付近が昇温して水温成層が形成されています [P2.水温鉛直断面図]。

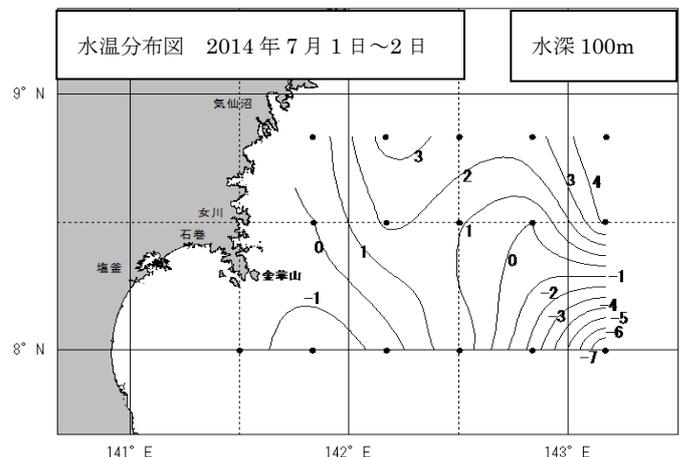
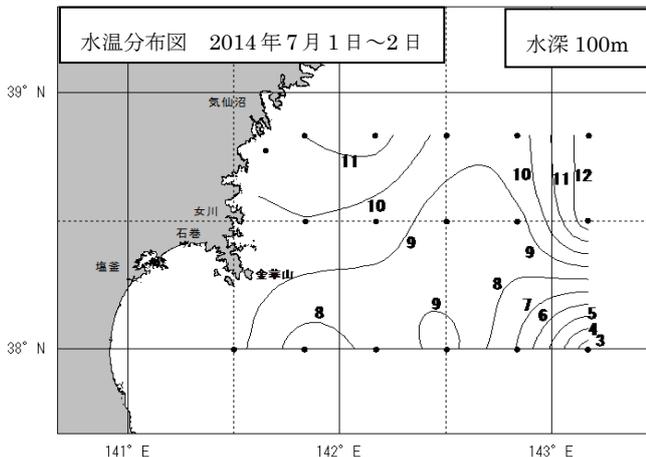
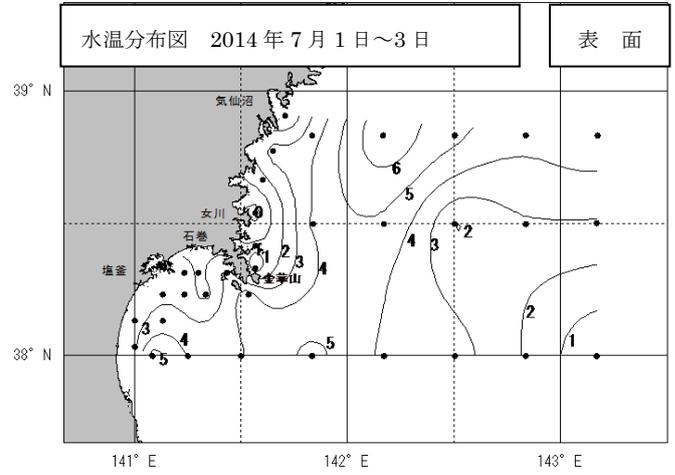
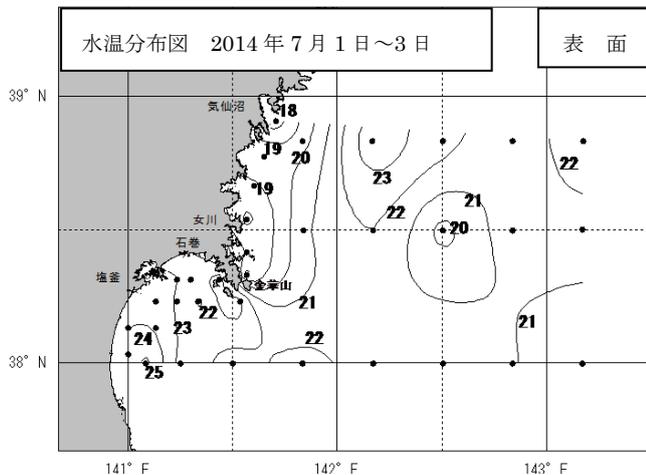
(一社) 漁業情報サービスセンター配信の東北海域漁海況情報(表面水温)によると、142° E付近で暖水が北上して金華山近海に接近しているのがわかります [P2.東北海域の海況図：(一社) 漁業情報サービスセンター]。

7月上旬の定地水温は19～24℃台となっています。平年値との比較では、気仙沼(杉ノ下)が「極めて高い」で佐須浜が「高い」となっています [P2.定地海洋観測結果]。

海底直上水温については、5～13℃台と概ね前年並みです [P3.海底直上水温図]。

・水温水平分布図

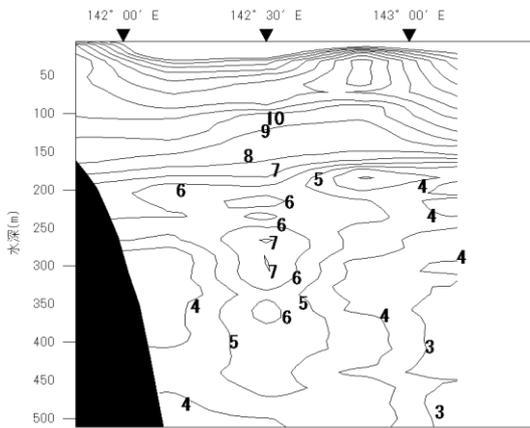
・水温平年偏差図(現在水温と平年水温との差)



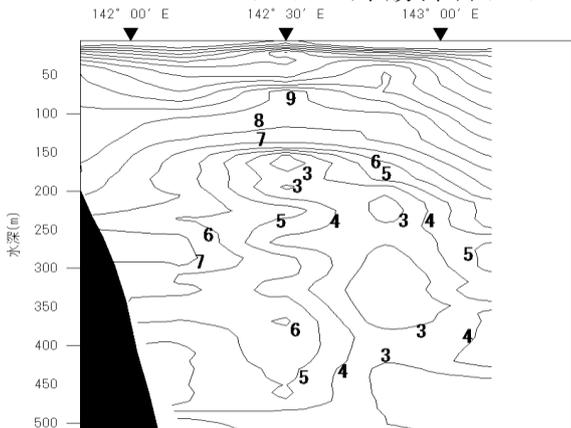
※海洋観測はみやしおと開洋が実施しました。

・水温鉛直断面図

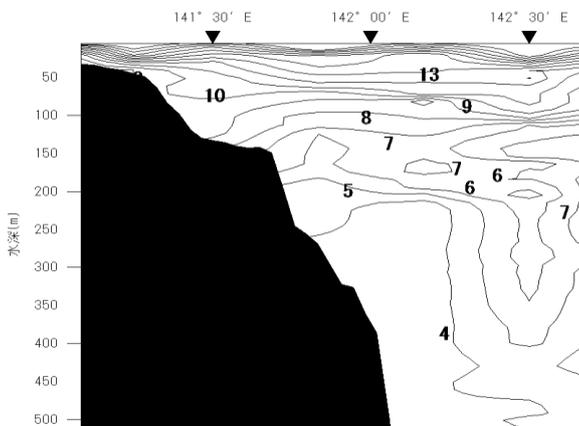
38° 50' Nライン(気仙沼沖合ライン)



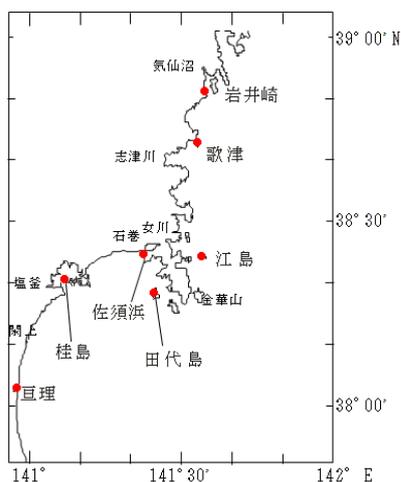
38° 30' Nライン(雄勝沖合ライン)



38° Nライン(亶理沖合ライン)

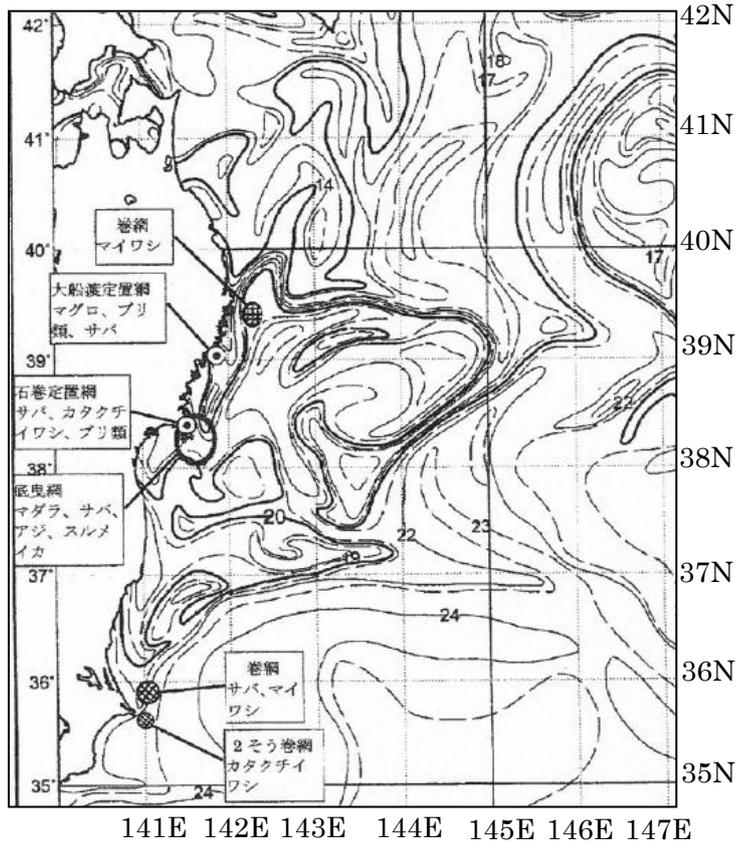


・定地海洋観測



2014年7月1日の東北海域の海況(表面水温)

(一社) 漁業情報サービスセンター



特記事項 (一社) 漁業情報サービスセンター

(7月1日表面水温)

- ・親潮の10℃先端は釧路近海まで退いたが北海道沿岸を経て三陸北部沿岸に13~15℃台の冷水を供給。
- ・宮古~金華山の沿岸に16~20℃台の冷水域が残存。
- ・黒潮は犬吠埼東40海里を北へ進み、日立沖で東進。
- ・142° E付近を暖水が北上して金華山近海に接近。
- ・145° Eより西側の三陸沖を20~22℃の暖水が久慈沖まで北上し三陸沿岸に接近。
- ・仙台湾20~22℃台。

観測点	7月上旬	平年差	前年差	
気仙沼(杉ノ下)	19.5℃	極めて高い	2.4℃	2.8℃
佐須浜	22.5℃	高い	2.1℃	1.4℃
桂島	24.2℃	-	-	1.4℃
亶理	23.9℃	-	-	3.1℃

※歌津と江島と田代島は自動観測装置による観測を中断しています。

※平年差

岩井崎 (30年)

佐須浜 (10年)

桂島 (平成24年2月から観測開始)

亶理 (平成24年10月から観測開始)

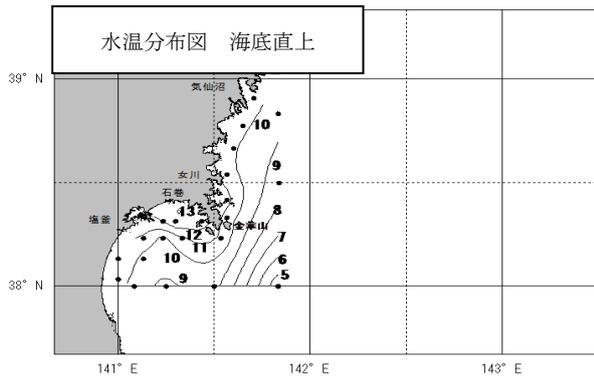
※定地海洋観測結果は、

「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/kaiyou/201407suion-index.html>」

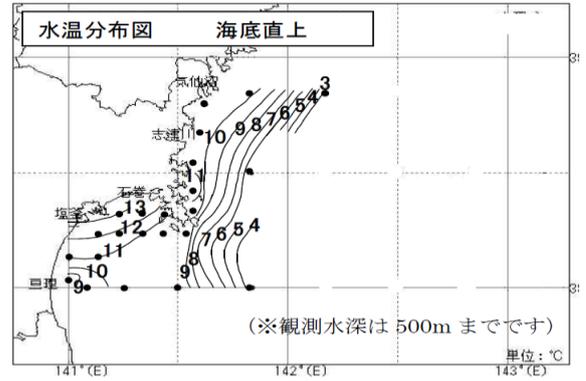
でも公開中です。

・海底直上水温図

・海底直上水温(2014年7月1日~3日)

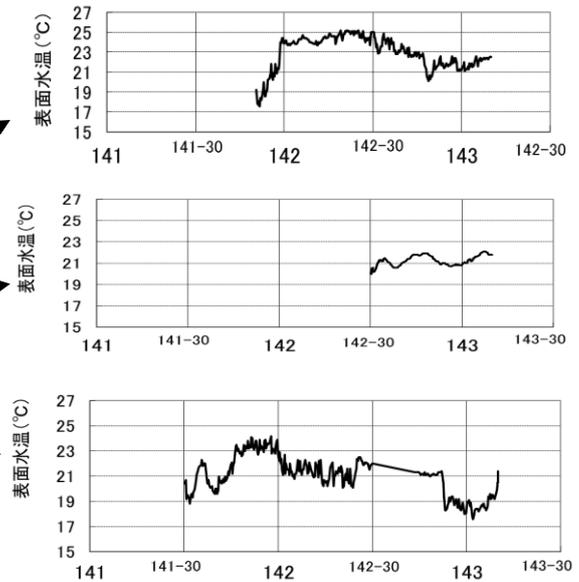
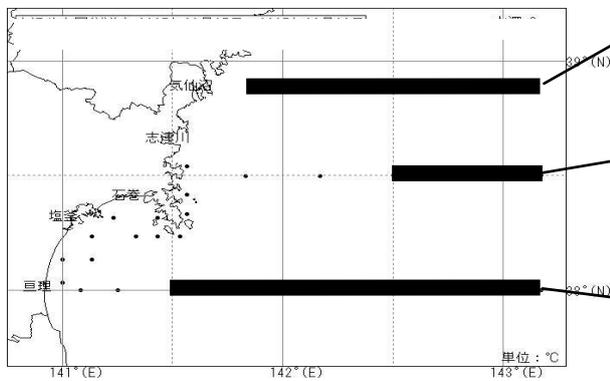


・前年同期海底直上水温(2013年7月2日~3日)



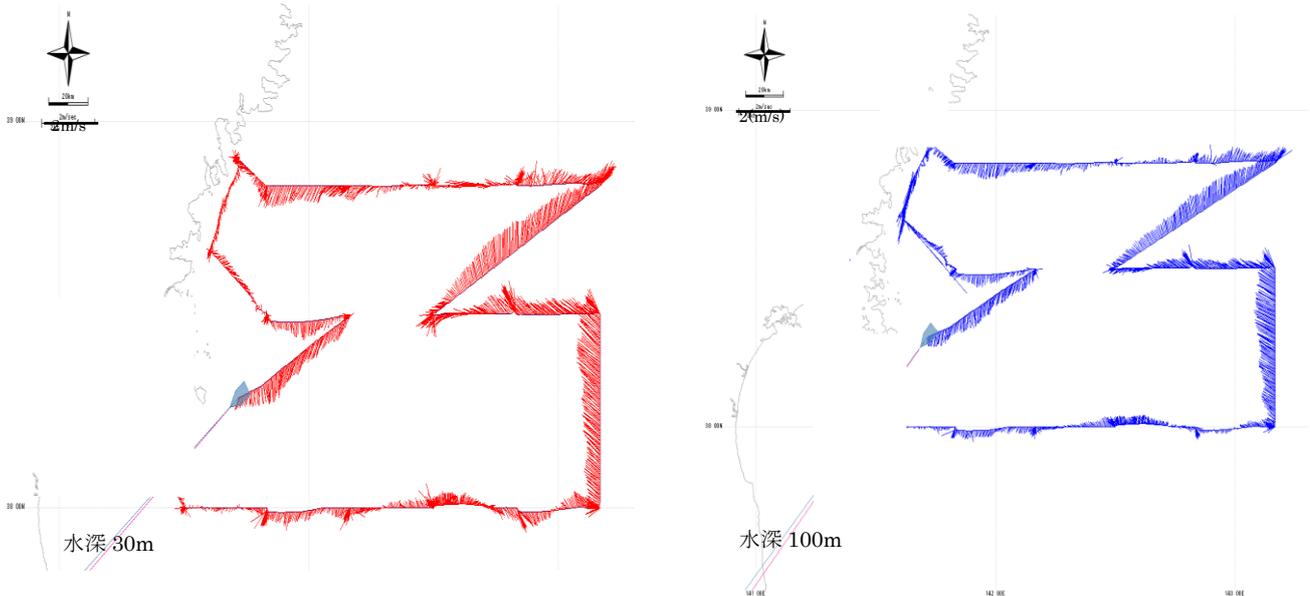
2. 表層水温情報

みよしおに搭載している「表層モニタリングシステム」で取得した航走表面水温は、右記の通りです。



3. 流向流速情報

みよしおに搭載している「超音波ドップラー流向流速計(ADCP)」で取得した30m,100m深の流向流速は、下記の通りです。



※潮汐成分は除去されていません。流向は測線から伸びている方向に流れがあることを示しております。

4. 調査船運航計画

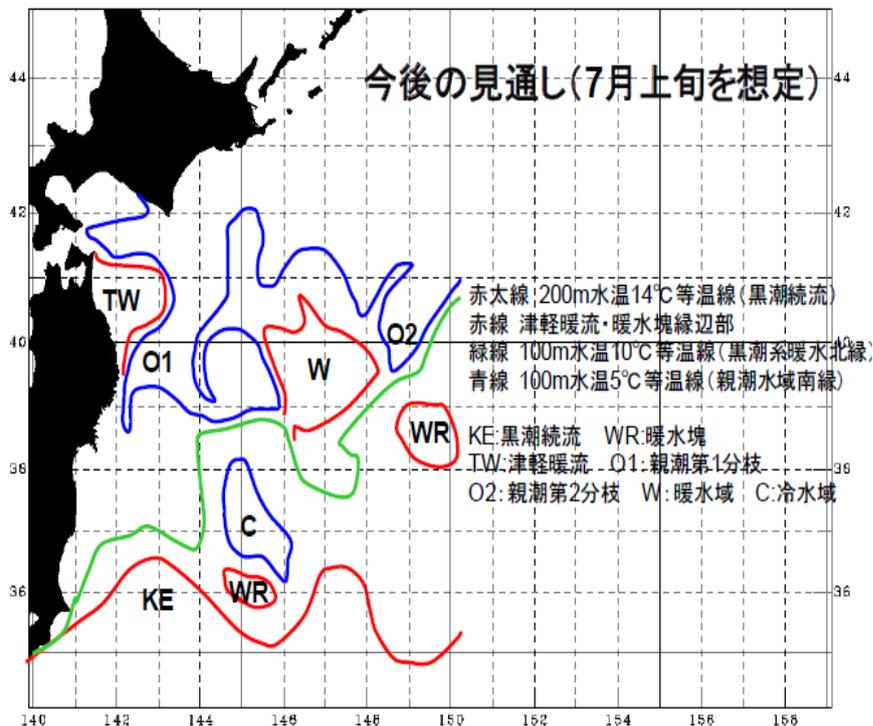
みやしお	
7月8日～7月9日	表中層トロール漁撈試験
7月14日～7月16日	沖合定線調査
7月23日～7月24日	ヒラメ24h調査
開 洋	
7月7日～7月11日	ペンドック
7月14日	マアナゴレプト調査

平成26年度第2回東北海区海況予報

平成26年6月25日付で、「平成26年度第2回東北海区海況予報」が出されました。今後の見通し(平成26年7月～8月)のポイントについて、以下に示します。なお、詳細は下記のホームページをご覧ください。(http://abchan.job.affrc.go.jp/index.html)

今後の見通し(平成26年7月～8月)のポイント

- ・近海の黒潮続流の北限位置は平年並みで推移する。
- ・親潮第1分枝の張り出しはやや南偏で推移する。
- ・常磐沖に冷水域が形成され、常磐沖の暖水塊は西進し、三陸はるか沖の暖水塊は停滞する。



平成 26 年度常磐・三陸沖カツオ長期来遊資源動向予測（6 月～11 月）

平成 26 年 6 月 24 日付けで、「平成 26 年度常磐・三陸沖カツオ長期来遊資源動向予測（6 月～11 月）」が出されました。予測内容の内、来遊資源量について、以下に示します。なお、詳細は水産庁のホームページをご覧ください。（http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140624_1.html）

来遊資源量

これまでの調査結果から、5 月上旬から 6 月上旬の竿釣り CPUE（1 日 1 隻あたりの漁獲量）と 6 月以降の常磐・三陸沖の CPUE に有意な相関関係が見られることから、この関係を用いて本年の常磐・三陸沖の 6 月以降の来遊資源動向について予測を行ったところ、「昨年水準と過去 10 年の平均値をやや上回る程度」との結果が得られました（図）。

なお、2011 年の中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）科学委員会においては、中西部太平洋のカツオの資源は全体としては問題がないものの、熱帯域における高い漁獲はカツオ資源の分布収縮を招き、高緯度海域においての利用が難しくなるとの懸念が指摘されています。このことから、資源状態と日本近海への来遊動向を引き続き注意深く見守っていく必要があります。

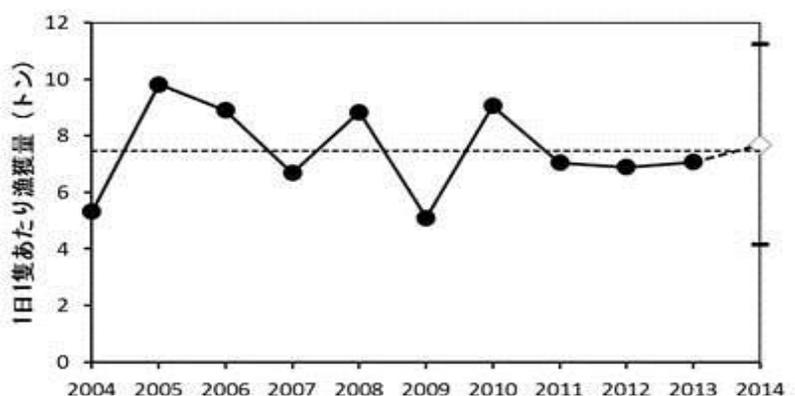


図 過去 10 年間の 6～11 月の近海竿釣り船による CPUE（1 日 1 隻あたりの漁獲量）および予測された 2014 年の CPUE 水準. 図中の点線は過去 10 年間の平均値（2004 年～2013 年）、右縦軸の横棒は 95% 予測区間を示す。